

水稲における固定式タイン型除草機の除草効果

【1 成果概要】

固定式タイン型除草機を用い、田植え後7~10日後に1回目、その後7~10日間隔で2~4回除草することで75~90%の雑草を除去することが可能であり、直進部分で慣行栽培に比べて約95%の収量を確保できます。

6条タイプの機種で利用面積を5haとすると、慣行栽培に比べ6,193円/10aのコスト高となります。

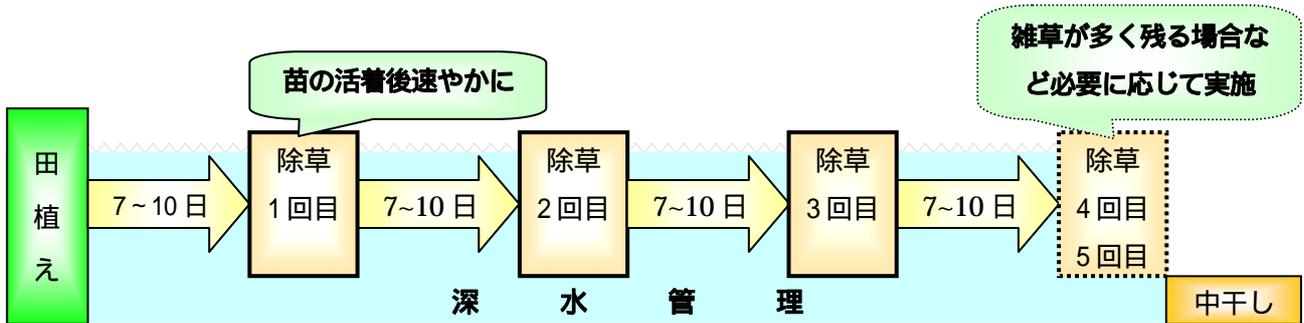


図1 除草方法

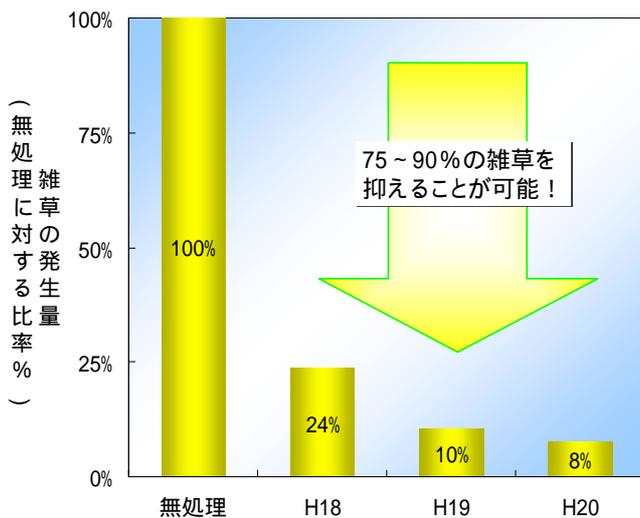


図2 除草効果

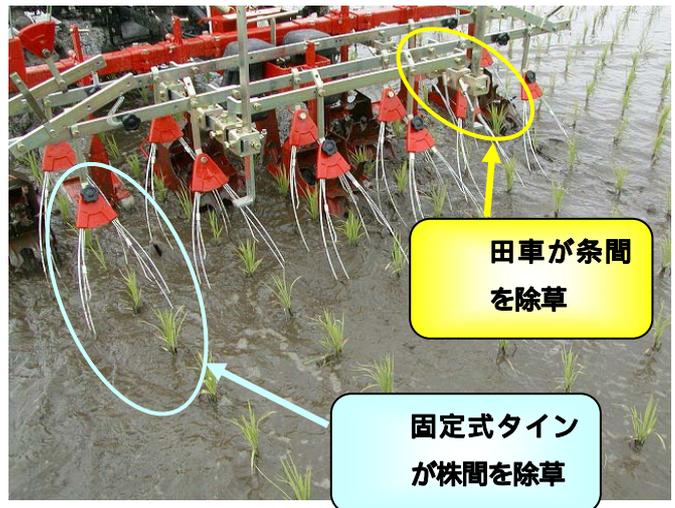


図3 除草機構

【2 留意事項】

- 1 本機種には、4条タイプ、6条タイプがあり、8条キットを装着することで8条まで対応可能です。
- 2 初期の除草が特に重要なので、1回目の除草は遅れないように注意してください。
- 3 稲わらを十分に腐熟させるために、すき込む場合は、秋にすき込みを行ってください。

【3 効果】

水稲有機栽培における除草の安定・省力化につながります。

【4 適応対象】

農業普及員等の指導者等、県内全域の水稲有機栽培者

【5 導入コスト】

慣行栽培（除草剤使用）と比較すると

1ha 利用	38,059 円/10a のコスト高
5ha 利用	6,194 円/10a のコスト高
15ha 利用	883 円/10a のコスト高